

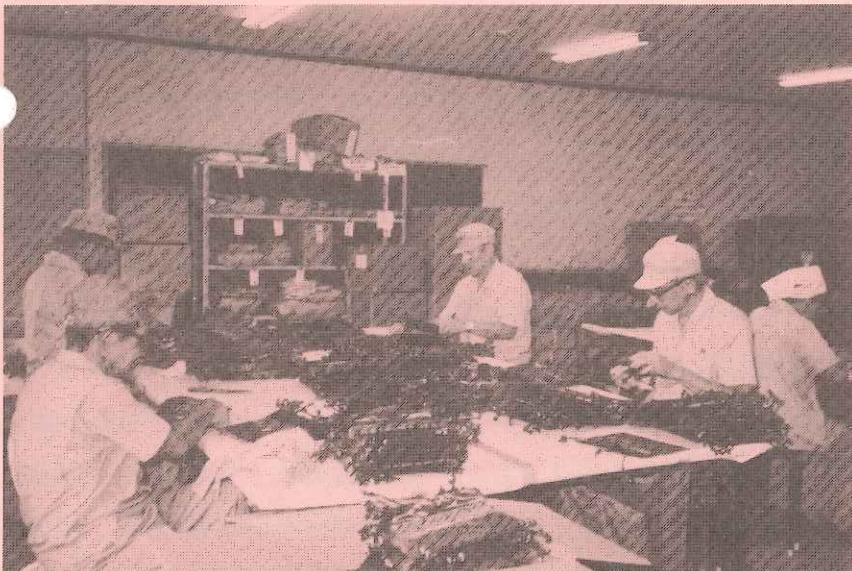
シルバーだより¹⁹⁸⁸ 3

NO.23



◆発行 社団法人 シルバー人材センター
所沢市高齢者事業団

所沢市宮本町1-1-2 ☎ 0429(28)8695-6



ふれあい

働く

健

康



隨 想

山口地区 飯 村 良 司

「其の1」、「人生は立板に水を流すが如し」と云うように、最近の1年間の短いこと、365日が200日位になった感じだね。私が所沢市高齢者事業団に加入させてもらったのが昭和53年2月20日であり、現在迄10年間一筋に襖貼りをやらせてもらっているが、よその事業団と違っている点は、貼る襖を事業団の作業場に持込まず、発注者宅に出向いての出張貼りということである。世の中とは、色々違った人間の寄り集まりの共同体であり、私共の出向く先々の方達も言葉の穏やかな人、乱暴な口調の人、それぞれ異なった人間が住んでいる。そうした中で、襖の多いお宅には3日も4日もおじゃまをする事もあるが、初対面に受けた印象が良くなかった方も、帰る時の印象がまるで良い方向に逆転していることもある。それはそれなりに気をつかったせいもあるが、外見だけで相手の心は見抜けないともいえる。ある人が「相手の態度は自分を写し出している鏡と思え」といったことを思い出し反省させられる。

「其の2」「作業中の多弁駄弁は慎しめ」とよくいわれたものである。しかし発注者にも仲々の話好きがいるものだ。作業をしているそばに椅子を持ち出して何時間も話しかけるという人もいる。作業そのものに興味があるのか監督しているのか、いずれにしろこの様な人にまともに対応していたら作業能率2割減間違いなしである。ほどほどにすべきである。

「其の3」仕事を楽しめることは健康であることのあかしであり、有難いことである。おいぼれとはいわず、高齢者の事業団として国からも認められ、仕事の場がお互いのふれあいの場として日々を過ごして行けることの悦びを抱き、これからも日々是好日で過ごしたい。

「其の4」長寿の心得5ヶ条 (1)60才は人生の花と思え。
(2)70才での世から迎えが来たら留守だと言え。(3)80才で迎えが来たら早過ぎると言え。(4)90才で迎えが来たらいそぐなと言え。(5)100才で迎えが来たら時期を見てぼちぼち考えることにするか。



(「其の4」については朝霞シルバー人材センター)
(相ノ谷専務理事からの受取りであるから念のため)

筆のままに

新所沢地区 石田 静子

「六十の手習い」という言葉がありますが、私も七宝焼をならい始めたのは五十の声をきいてからのことです。これは、子育ても終わり仕事も一区切りをつけたとき、自分自身の楽しみの一つとして覚えておきたかったのです。

さて、アトリエに通いだすと、市販されているアクセサリーの一つ一つの色、形にも興味が湧いてきます。あの赤はチューリップの赤い花の色とか、この赤は紅梅の赤の色とか、今迄に見逃がしていた事柄をみつめていくことができました。

自分の手で創り出していくことですから、失敗も多いのですが、時間と丹精こめて焼き上げた作品を眺めては、ひとり会心の喜びを覚えることもあります。いつしか私も還暦をすぎて、以前ほどの失敗もなくなってきた反面、多くの作品が手許に残るようになってきました。箱の中に入れられたこれらの作品を一体どうしたらよいか、と考えておりましたとき、事業団の方々のお骨折りで秋の所沢市市民フェスティバルに出品させていただくことがきました。事業団の会員の方々の作品といっしょに私の作品もフェスティバルに並ぶということは、ほんとうにうれしいことでした。それは、フェスティバルに直接私も参加できるということになるからです。

ともすれば家にこもりがちになる私たちは、何かの糸をもって社会に触れていくたいと思っていますが、その機会と場所がわからないまま一日一日を過ごしていることが多いのです。

年々高齢者と呼ばれる人々のふえていく中で、ひとりひとりの生きてきた経験と技能を社会に役立たせることが、現在生きている証になっていくのですから、この事業団のあり方は私たちにとって、ありがたい存在なのです。

市のフェスティバルには去年も、一昨年も我个人の七宝の作品をならべて参加しましたが、同好の方々とご一緒に作品を展示できたら、もっと有意義なこととおもっております。

六十路にてはたらく事の嬉しさよ
世のためなればなおも嬉しき
きらきらと初日の光さわやかに
辰にあやかり幸多かれど
松井地区 渋谷ちよ

私と西武線

新所沢地区 高橋嘉弥

老人の記憶力が不確実であることを御承知の上でお読み下さい。

私が新宿区の四谷に住んでいた頃に、西武電車というのがありました。新宿西口から青梅街道を通って荻窪が終点で、ずい分ユレの激しい電車でした。のちに都電となり、30という番号でしたが、いつの日か廃止されてしまいました。

第二次大戦（私たちは大東亜戦争といいました）の中頃、空襲が激しくなって四谷から中野の鷺ノ宮に移りましたが、電車は高田馬場から鷺ノ宮まででした。それが上石神井を通って田無まで開通したのは大分のことですが、鷺ノ宮と下井草駅の中間に西鷺ノ宮駅というのがあった、その駅舎に田舎言葉丸出しの子供が住んでいたのを憶っています。

或る日、荻窪の中島飛行機を爆撃したB29が帰り際に、残った爆弾1個を捨てたのがこの西鷺ノ宮駅の傍に落ちて、死傷者が相当あり、私の家内は素掘りの防空壕に埋まってしまいましたが、その後この西鷺ノ宮駅も廃止されました。

当時鷺ノ宮近辺には風呂屋さんがなくて、西武柳沢まで電車に乗って風呂屋へ行き、冬などは帰りが寒くてタオルがコチンコチンに凍って困りました。

西武線がだんだん西へ延びて所沢まで開通した頃は、所沢と聞くと遠い他国のようにさえ感じた程で、その所沢から単線で本川越まで行けるようになった頃の新所沢駅は、北所沢駅という名で、田舎の無人駅のような木造の汚い駅でした。勿論跨線橋などはなく、ちょっと待ってくれと大声で叫ぶと発車を待ってくれました。これが昭和34年のことで、今の緑町は所沢市大字上新井と言いましたが、こんな田舎に住むのかと嘆く程に淋しいところでした。

今や電車も冷暖房付、急行もあり、西武新宿まで僅か45分。30年間の変わりようには本当に目を見はるばかりです。

頑張っています!!

編集後記

月別	区分	受託件数	就業人員		契約高			計
			実人員	延人員	配分金	事務費	その他	
62/11		246	264	4,599	15,844,313	872,500	340,115	17,056,928
62/12		249	267	4,804	16,664,516	1,025,349	402,589	18,092,454

色々と原稿ありがとうございました。
こんごもよろしく。

